

9月21日(月)

うちに帰ろう

聖書朗読 伝道者の書 12:5~7

私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。
Ⅱコリント 5:8

祖母が結婚して間もないころの話です。祖母と祖父は幌馬車に乗って、テキサスをあとにし、その当時はまだインディアンが支配していたオクラホマへと向かいました。2人は土地を手に入れ、丸太小屋を建て、作物を植えました。

ところが、数か月後、干ばつが起こり、さらに悪いことに、祖母は流産してしまいました。悲しいことは続くもので、そのうえ家が燃えてしまいました。

そのとき、2人は決心しました。生まれ故郷のテキサスに帰ろう、今がその時なんだと。帰途の旅で疲れ果てた2人は、やっと故郷に通じる道にたどり着きました。でも、愛する人たちに会えると思うと、うれしさが胸が張り裂けそうです。2人を乗せた馬車を引っ張っているロバでさえ、もうすぐうちに着くという喜びで興奮し、駆け出しました。

聖書は、私たちの永遠の家について語っています。私たちの肉体は地のちりに帰り、霊は神様のもとに帰ります。主とともにわが家にいられることは、なんて素晴らしいことでしょうか。

さらば、高慢な世よ。

われは家路にあり。

汝はわれの友にあらず、われは汝のものにあらず。

——ラルフ・ワルド・エマソン

讃美歌 517

祈り お父様。あなたのもとへと家路に着いているとき、私たちをなぐさめ、祝福してください。

イエス様の御名により。アーメン。

コーディーリア・ラッカー

オクラホマ州 ウッドワード

今日のカ

2020年9月21日~9月27日

事情により、以前に配布されたものから再編集してお届け致します。

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

9月22日(火)

あわれみを請う

聖書朗読 マタイ 25:31～40

『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどう意味か、行って学んできなさい。
マタイ 9:13

この箇所から得られる教訓は、こんなことだと思います。人は人生のドラマの最後の幕が降ろされる時、ひとつの質問を自分になげかけます。「私は人に対して思いやりがあったらどうか？」

ここでは人間の運命を決定づけるものとは、あわれみの気持ちと、そこからでた他人への思いやりの行動であることがわかります。「あわれみ」はひとつの選択肢ではないのです。

そしてこのことを考えるとき、私たちはその理由がわかります。あわれみは、神様の本質の核の部分なのです。神様に近づけるように努力することは人間の存在意義の本質にあたるものです。したがって、ある人が神様と永遠に歩んでいくのなら、神の本質を分かち合わなければいけない（ここではあわれみに関して）ということなのです。

聖書の中には、あわれみのテーマがはじめから終わりまでくまなく流れています。神様の靈感によって書いた聖書の筆者たちが決して疲れなかったのは、神様の心と人間のあわれみの心が、親しい関係をもっている証なのです。

聖歌 285

祈り 聖なる父よ。キリストが私たちのために天の御国を準備してくださっているのにもなって、どうぞ私たちの心の準備を助けてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ロバート・W・ローレンス

ネブラスカ州 ヨーク

9月23日(水)

伝道とは？

聖書朗読 マタイ 10:5～16

父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。

ヨハネ 20:21

私たちはいま伝道中です。私たちは一時的な滞在者であり、この世界の住民ではありません。冒険をする傭兵ではありませんが、伝道をするために派遣されてきたのです。ブラクッピーは「キリストとの関係を持つことができなければ伝道することはできない」と記しています。

「伝道」というと、外国で行くことを思い浮かべますが、隣人にキリストについて語ることが伝道なのです。親愛なる教会の姉妹であるボニーは、およそ健康とは言いがたく、何度も入院を繰り返しています。彼女は病院での日々こそが伝道のための旅であると考えていると話してくれました。神様を賛美するチャンスを与えてられていると言うのです。彼女の言葉は新しい伝道への解釈を与えてくれるものではないでしょうか。

もし天使のように話すことができなくても

もしパウロのように御言葉を伝えることができなくても

イエス様の愛を語ることはできる

「皆のために死んだ方」と伝えることはできる

与えられたこの役割を喜んで受けよう

その役割をあなたの喜びにしよう

呼びかけにはすぐ答える

「わたしはここにいます 主よ わたしを遣わせてください」

—————Daniel March

讃美歌 225

祈り 父よ。私が出会い、キリストの伝道のためにここいることを思い出させてくれた人々と、よいニュースを分かち合える勇気を与えてください。

イエス様の御名を通して。アーメン。

フリーダ・フラートン

カリフォルニア州 アナハイム

9月24日(木)

どのように彼は知ったのですか？

聖書朗読 ヨハネ 1:29~34

わたしもこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを受けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。「聖霊がある方の上へ下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを受ける方である。」
ヨハネ 1:33

私は、バプテスマのヨハネが、イエス様にバプテスマを受ける前と、授けた後に言ったことばの違いに、いつも魅了されています。バプテスマの前にヨハネはこういっています、「私はあなたによってバプテスマを受けなければなりません。授けてくださいますか？」——そして、その後にヨハネが言ったことばは、今日の聖書朗読の箇所に見られるとおりです。

最初のことばの中で、私たちはヨハネがイエス様は世の救い主であることを知っていたと考えてしまいがちです。しかしその後のことばの中で、ヨハネはバプテスマの後までそのことを知らなかったということが明らかにされています。

ヨハネはイエス様を知っていました。イエス様はヨハネの親類だからです。親類としてよくあるように、彼らは一緒に育ち、私たちいと同じく土がやるように、一緒に遊んだり、神様の創造について意見を交わしたりしたことでしょう。二人が大人に成長したとき、ヨハネはイエス様が自分よりもずっと正しく、特別に良い人であることを知るようになりました。それが、ヨハネがイエス様にバプテスマを受けることに異議を唱えた理由です。想像してごらんください。彼のいとこであるイエス様が、世の救世主として彼に正体を明かした瞬間のヨハネの驚きを。

自分が賢いという印象と、イエス・キリストの救いの力の偉大さを同時に印象づけることは誰もできない。

———— ジェームズ・デニー

讃美歌 199

祈り お父様。私たちが今日の仕事にとりかかるときに、イエス様を良い人としてだけでなく、この世の救い主として思い出せるように助けてください。
イエス様の御名において。アーメン。

ジョン・ライト

カリフォルニア州 ストックトン

9月25日(金)

安心感

聖書朗読 エゼキエル 29:1~16

イスラエルの家は、これに助けを求めるとき、咎を思い起こして、もう、これを頼みとしなくなる。このとき、彼らは、わたしが神、主であることを知ろう。
エゼキエル 29:16

あなたは、何に安心を感じますか。

今日の聖書の箇所でのイスラエルは、エジプトという強力な国家と同盟関係を結ぶことで、エジプトは彼らを守り、助けてくれると安心していました。しかし、神様は「NO」と言われます。イスラエルに教訓を与えるために、エジプトを廃墟にすると言われました。イスラエルの民は、唯一、神様だけを頼みとしなくてはならないと。

イスラエルは、神様よりもエジプトを頼りにすることなどできるでしょうか。さて、私たちはどうですか。私たちは何を頼みとし、何に安心を感じますか。強い国家、ダイヤモンドのかけら、銀行預金、株券、債権、警備システム、ベッドの横の引き出しにしまっている銃ですか。

みんな、間違いですよ。政府は転覆することがありますし、株も暴落します。家や車といった家財には寿命がありますし、盗まれることだってあります。イスラエルと同じように、私たちも、安心のよりどころは1つしかないことを学ぶ必要があります。神様こそ、まことの主であられ、私たちの安心となぐさめのよりどころなのです。

聖歌 233

祈り 真の主よ。御力をほめたたえます。平安を求めて、あなたにだけをお頼りすることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ゲーリー・ハロウエー

テネシー州 ナッシュビル

9月26日(土)

日常生活にこの歌を

聖書朗読 ルカ 6:46~49

その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。
ルカ 6:48

私は2人の小さい男の子の里親だったので、彼らの経済的なサポートするために、15年間教会の託児所で副業として、12歳と3歳のクラスを担当していました。子どもたちはみな歌が大好きで、私たちは「賢い人が家をたてた、岩の上に家をたてた」の歌を何百回と歌いました。子どもたちは歌の最後で、おろかな人の建てた家がペしゃんこに壊れるところで、大きく手をたたくのをいつも楽しみにしていました。

イエス様はこの物語が皆の心にずっと忘れないでいることを知っていました。一人の大工は何が本当に大事かを理解して、硬い岩の上に家を建てました。その人はどんなに時間がかかっても、どんなに大変でも将来のことを考えてやりました。この家は嵐や避けることのできない恐怖がおそってきても壊れることはありませんでした。

おろかな人は、簡単な道を選び早く仕上げる方法をとりました。自己中心で注意力がなく、全く基盤を作らずに建てました。この家は洪水がくると、すぐに壊れてしまいました。

私は今でも昔受け持った何人かの子どもたちと交流があります。私は彼らから「私はクリスチャンになりました。バプテスマをうけました。キリストが私の岩です!」ということを知るととてもうれしいです。しかし反対に、「洪水」で流されてしまった子どもを知ると、とても悲しくなります。

イエス様の話された物語は、子どもの歌以上の意味があります。これは人生に関する真実を語っているのです。

聖歌 409

祈り お父様。あなたに対して、嵐の時もしっかりとした土台で建てられるよう助けてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

モード・コッギン

アラバマ州 モンゴメリー

9月27日(日)

誰かがあなたを傷つけたら

聖書朗読 マタイ 18:15~20

あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。

ローマ 12:18

イエス様のアドバイスの目的は罪を犯した兄弟を再生させることで、屈辱を与えることでも打ちのめすことでもありませんでした。それは、復讐の機会を与えるものでもなく、親切と寛容が与えた和解だったのです。

愛は、罪を犯したものがこちらに来るのを待つのではなく、むしろこちらから近づいていくことを促します。ばつが悪い思いをさせないようにその人にそっと近づき、魂のために穏やかに話しかけます。その人の行いを説明する言葉を捜し、友達として兄弟として助言をします。ほとんどの場合、友好的なちょっとした会話は物事を正しい方向に導きます。

もし最初の試みが失敗したら、可能な限り大勢の人を避け、1、2名のクリスチャンの友人と共に2度目のチャンレンジを試みましょう。おそらく、その人は彼らの言葉に耳を傾けるでしょう。特に、語りかける人が権威者、影響力のある人あるいは個人的な友人であればなおさらです。

すべての試みが失敗に終わったら、最後の砦は公にすることです。おそらく罪を犯した人は同胞の言葉には耳を傾けるでしょう。

イエス様の役に立つアドバイスは大きな苦悩や苦しみから私たちを救ってくれます。

神様はあなたを判断しません

メダルや学歴では、ただし傷跡ではするでしょう

— Elbert Hubbard

讃美歌 531

祈り お父様。罪を犯したものを取り戻す方法を私たちに示して下さりありがとうございます。敵を愛せますようにお導きください。

イエス様の御名を通して。アーメン

エドウィン・F・ホワイト

アリゾナ州 フェニックス